

協創推進の取組み状況

(令和8年4月時点)

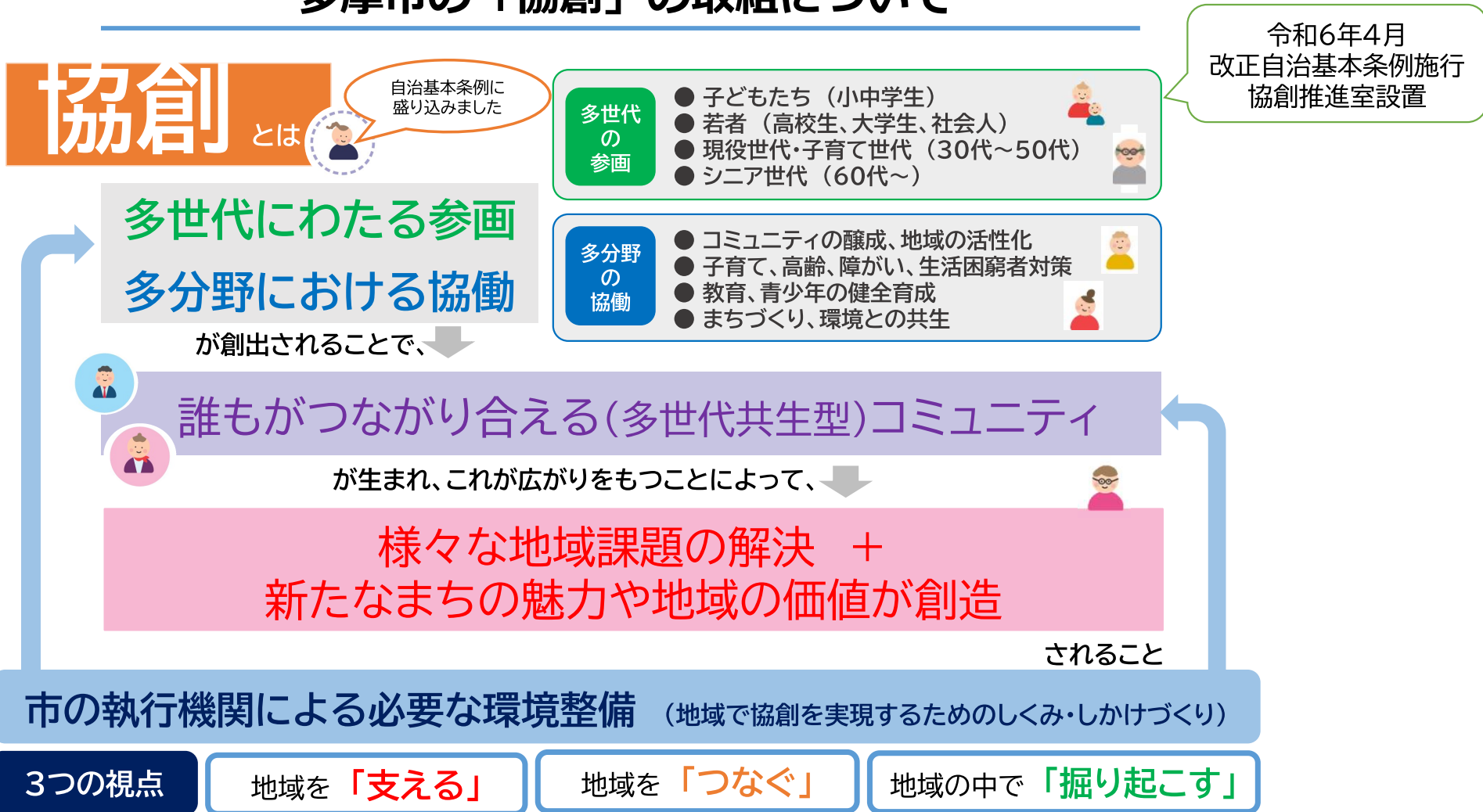
次第

1 これまでの取組み状況の共有

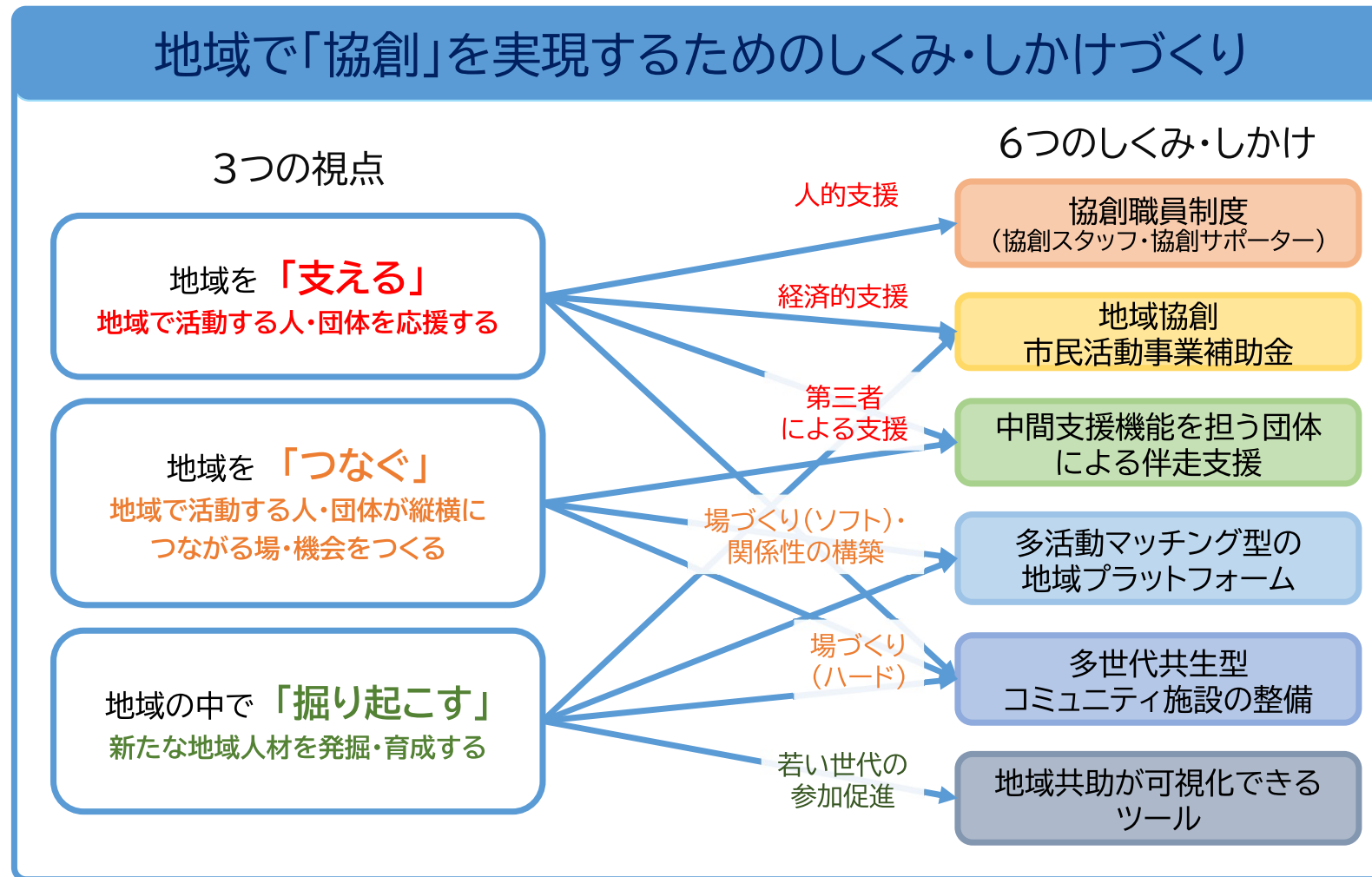
- (1) 地域で「協創」を実現するためのしくみ・しかけづくりについて
- ① 協創職員制度 <協創サポーター>
 - ② 地域協創市民活動事業補助金 「ツナたま補助金」
 - ③ 中間支援機能を担う団体による伴走支援
 - ④ 多活動マッチング型の地域プラットフォーム <自治推進委員会中間答申>
 - ⑤ 多世代共生型コミュニティ施設の整備
 - ⑥ 地域共助が可視化できるツール (②と関連)

(1) 地域で「協創」を実現するためのしくみ・しかけづくりについて

多摩市の「協創」の取組について



「協創」の取組 - 市の進める環境整備 (しくみ・しかけづくり)



① 協創職員制度

■ 協創職員制度

- 協創スタッフ (R6～ 協創推進室職員 21名)
- 協創サポーター (R7～ 若手職員の研修制度)
- 協創シニアサポーター (ベテラン職員の活用)



地域みなさんと一緒に活動して、今後活かせるスキルやネットワークを得る

● 協創スタッフ

■ 協創スタッフとしての職務内容

- 地域を**支える** (≒アドバイス)
 - 分野横断的な行政側の窓口、情報の収集・提供
 - 関係課と地域との橋渡し、庁内調整
- 地域を**つなぐ** (≒コーディネート)
 - 地域の会議に参加し、関係づくり
 - 団体間、人同士をつなぎ、ネットワーク形成
- 地域の中で**掘り起こす** (≒プロデュース)
 - エリアミーティングの開催等で新たな人材発掘
 - 地域カルテ、地域ビジョンの策定を通じた人づくり

● 協創サポーター

■ 協創サポーター研修制度(若手職員)

- 若手職員の研修として、地域のイベントや事業への参加、支援を通じて、市の職員としてのスキルアップ、能力育成を図る
(コミュニケーション能力、ファシリテーション能力)
⇒令和6年度は公募職員による試行 (11課17名)
⇒令和7年度は継続10名と2年目全職員(34名)
⇒令和8年度 継続+2年目全職員(53名)

● 協創シニアサポーター (構想中)

- 役職定年を迎えた管理職経験職員のキャリアを地域で活用検討



組織で得たスキルやネットワークを地域に活用して協創の実現に貢献

④ 職員向けの取組みについて

● 協創サポーター

	R6	R7	R8	R9
R5以前 入庁	【協創サポーター】 公募 事務従事 (年4回程度) 17	【協創サポーター】 (希望者継続) 事務従事 10	<各自業務外> 自己研鑽	<各自業務外> 自己研鑽
R6入庁	<地域実習> 新任フォロー研修 現場体験(座学、現 場1日、ふり返し) 34	【協創サポーター】 悉皆研修 (年4回程度) 34	【協創サポーター】 (希望者継続) 事務従事 調整中	<各自業務外> 自己研鑽
R7入庁	—	<地域実習> 新任フォロー研修 現場体験(座学、現 場1日、ふり返し) 53	【協創サポーター】 悉皆研修 (年4回程度) 53	【協創サポーター】 (希望者継続) 事務従事
R8入庁	—	—	<地域実習> 新任フォロー研修 現場体験(座学、現 場1日、ふり返し) 56	【協創サポーター】 悉皆研修 (年4回程度)

コミセン祭りに
実行委員会から参加

- ① **継続希望職員(事務従事)**
事前レクチャー+単発の活動または企画や
準備段階からの活動[数回程度]
+協創推進室との調整・制度に関連する事務
+振り返り会

4/24ファシリ研修
6月頃~活動開始

- ② **入庁2年目職員(研修)**
事前レクチャー+単発の活動または企画や
準備段階からの活動[4回程度]+振り返り会

- ③ **入庁1年目職員(研修)**
※実習は市が主催する事業を中心に行う
講義+単発の※実習[1回]+振り返り会

9/18からスタート

(参考)活動数概数

189=34*4+53

268=53*4+56
(1.4倍)

メインでサポーター
活動する部分

① 協創職員制度

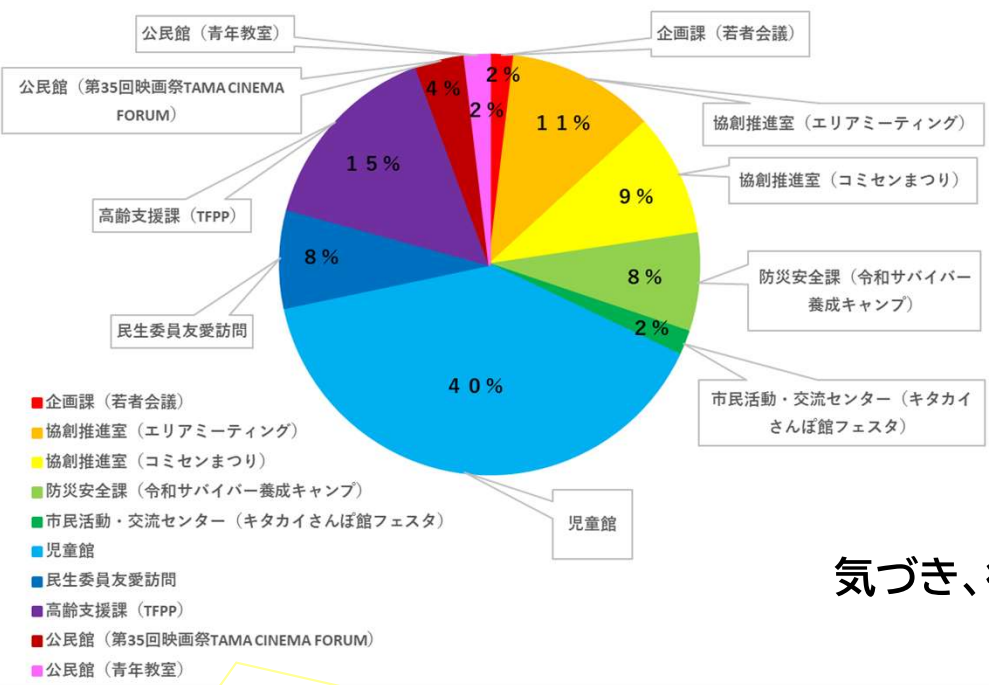
● 令和7年度振り返り

■ 1年目実習（座学＋年1回実習）

■ 2年目研修（原則4回活動）

約8割が、連続性のあるイベントへ参加

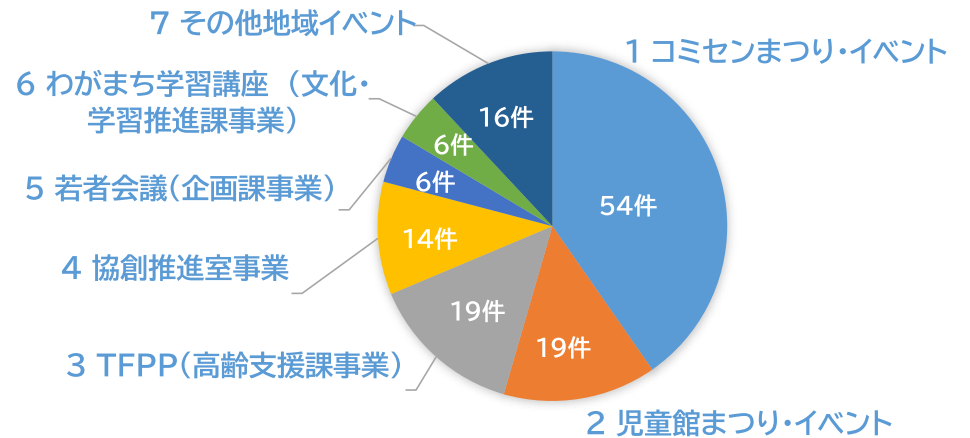
入庁1年目の研修先



気づき、得られたこと

- ・実習先でどんなことを目的・目標に事業を実施しているのか**知ることができた**。
- ・**普段の業務で関わらない地域の方々と交流**ができ、地域や事業の課題について考えることができ、有意義だった。
- ・実習を通じて市民と**直接関わる現場を体験**できた。**市民目線**で考える機会になった。
- ・実際に現場で市民の**実情**や求めていることを知ることができ、**市民と対話**ができる機会を得られることはとても貴重だと思う。

活動先内訳



1. 普段の業務では知らない多摩市のことを**知る**ことができた
 - ・地域団体や多主体との連携状況や行政・他部署の役割理解
 - ・地域主体の交流事業の意義やコミュニティ施設の機能理解
 - ・人員・負担課題、参加状況課題発見
2. 地域で活動する人と**良い関係を築く**ことができた
3. 地域に**貢献**できた
4. 自身の**能力向上**(コミュニケーション、ファシリテーション等)ができた
5. **業務に関わる知見やネットワーク**を得ることができた

① 協創職員制度

■課題・改善点（年次共通）

●事前に意図や活動の狙い

事前の集合研修での
レクチャー内容の工夫

4/22 継続説明会
4/24 2年目ファシリ研修
9/19 1年目講義

●先輩や関係部署に話を聞く機会

事前の集合研修、
事後の振り返り会を
年次を越えた場に

2年目振り返りに継続が
1年目振り返りに2年目が
それぞれ参加

●一連の流れに参加して、手伝いだけでない関係性を

地域との関係性、連続性を
重視し、2年目研修は
連続参加を基本とする

参加受け入れ先を
募集・調整中



3/2 2年目振り返り会の様子

地域の活動や市民の考え、実情を知ること
で、普段の業務だけでは気づきにくい地域
の方の想いを感じられ、多摩市への愛着が
強まり新たな仕事の視点が得られた。

同期の中でこういった活
動を行ったのか聞く機
会がなかったため、様々な経
験談を聞いて良かった。



3/13 1年目振り返り会の様子

市民への対応で学ぶことが
多かった。普段の業務におい
ても、相手に伝わる説明や状
況に応じた対応など市民に
寄り添った対応を意識したい。

② 地域協創市民活動事業補助金 「ツナたま補助金」

【概要】

- 新規の取組みや新しい参画者を増やしていくためのしかけ
- 既存の団体の活性化や新たな担い手の掘り起こし



【対象事業】

【テーマ設定型】 分野横断的な地域共助の可視化につながる事業 (50万円×1件)

地域共助が可視化できる
ツール

■昨年応募

【ツナコース】

4件

【市民発意型】 多世代・多分野の地域コミュニティ形成につながる新規事業 (5万円×10件) 【たまごコース】

協創職員制度
(協創スタッフ・協創サポーター)

中間支援機能を担う団体
による伴走支援

9件

② 地域協創市民活動事業補助金 「ツナたま補助金」

■昨年度の事業内容

【ツナコース】

●(つながる多摩)つなたま掲示板

10月～1月 掲示板に掲載



継続利用検討中

新たな活動のきっかけ

やってよかった。
参加者の笑顔が嬉しい

地域のニーズや課題を
知る機会になった

職員の伴走のおかげで、関係部署と課題
感を共有し、有意義な情報交換ができた

●安心してきてね。 多胎児、年子 予約休憩室

10/25 ハロウィン 予約休憩室



●地域のだれもが 「やってみよう！」ができる場所

12/7 つながりマルシェ
1/17 新年祭



●地域の音楽愛好家を結ぶ、 オープンマイクイベント

10/26 イベント実施



【たまごコース】



11/8 まちあるき

●諏訪・永山れきし散歩

9月10月 映画上映会
11/1焚き火 11/8 0円ショップ
11月～1月 勉強会・ワークショップ

●地域活動の必要性の理解を 求めて-自己変容と価値観共有

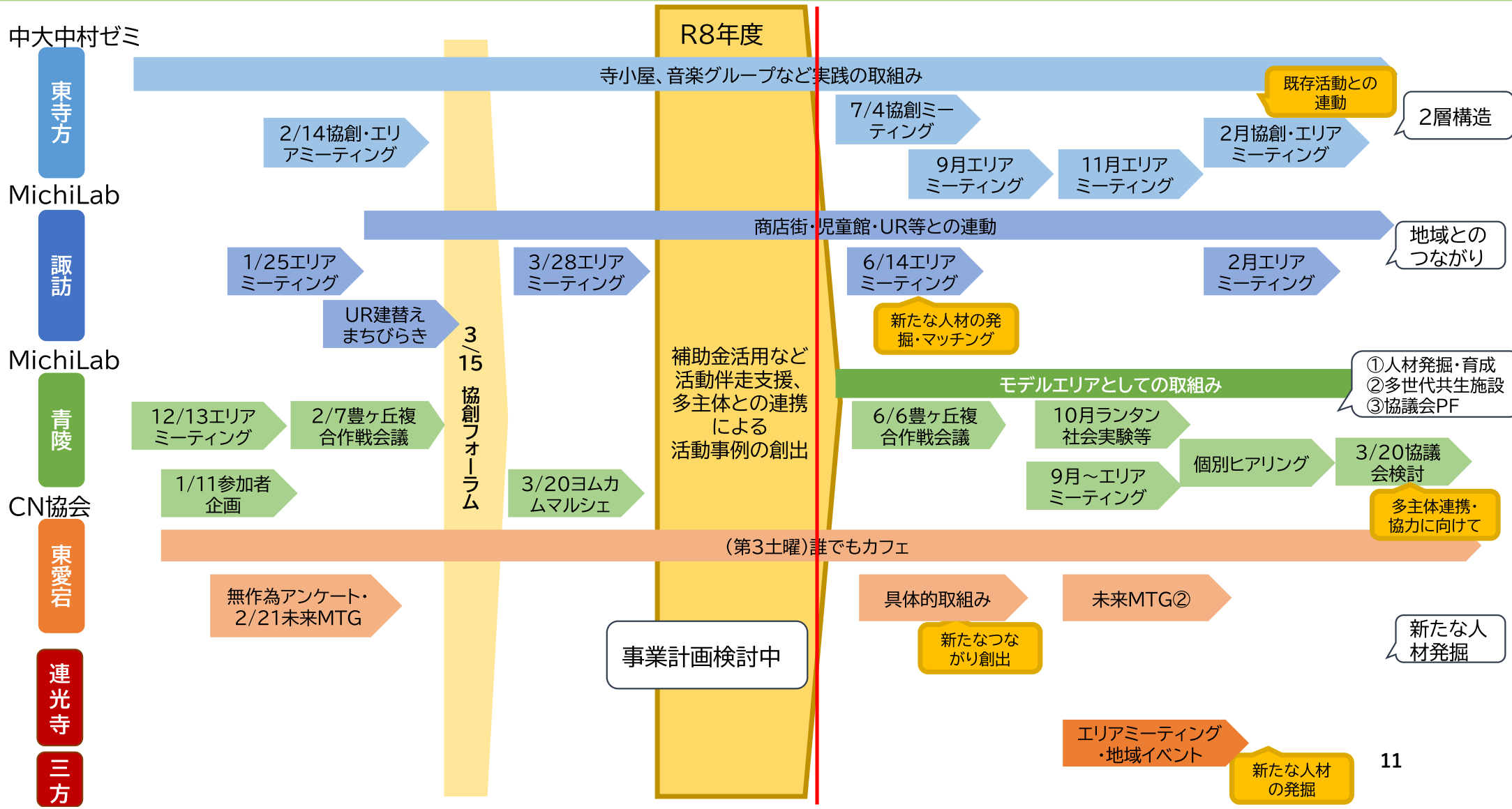


■ 3/15 協創フォーラムにて報告



中央図書館 52名参加
それぞれの活動を通じた気づきや想いを知り、
互いにいい刺激を受けあう場

③ 中間支援機能を担う団体による伴走支援・④ 多活動マッチング型の地域プラットフォーム



⑤ 多世代共生型コミュニティ施設の整備

10月末閉館

現在の
状況、整備
に向けた
考え方等

豊ヶ丘

整備方針策定(令和7年3月)

建替え

⇒今後基本計画策定

指定地域共同活動団体の検討

○基本理念

「地域ニーズに柔軟に答え、多世代が集い、学び、つながる、豊ヶ丘の地域拠点」

諏訪

現在の施設は老朽化が著しく進行し、耐震基準を満たしていないことから、なるべく早期に、仮施設に移転したうえで、当面の間は、地区市民ホールとして運営。

近隣の都営団地建替え、UR団地再生の状況を踏まえ、今後の施設像を要検討。

東寺方

再編後もコミュニティ施設として整備し、再編後は、既存のコミュニティセンターを補完するコミュニティ会館とする。

地域の人口構成、ニーズに柔軟に対応できるような運営形態の導入についても、地域の意向をふまえながら検討

R7年度
実績・
R8予定
事項

住民対話を踏まえ検討

- ・施設コンセプト
- ・機能、サービス
- ・運営方法 など

①9/6(48名) ②2/7(37名)

③6/6

+10月ランタンフェスでの社会実験

東京都と、仮施設 移転先整理

9/9,19住民説明会(計91名)

関係機関との将来施設の検討

令和7年～、住民との対話にて

「整備方針」を検討

10/18協議会

11/29協議会

1/17中間報告

2/11協議会

3/7協議会

4/25協議会



モデルエリアとの連動

⑥ 地域共助が可視化できるツール

②ツナたま補助金と合わせて 継続検討